

SIIT 派遣報告書

電子・光システム工学科 4 年

石川 薫

私は 2008 年の 6 月から 10 月までの 5 ヶ月間、タイ王国国立タマサート大学シリントン国際工学部（以下 SIIT）に交換留学生として留学をした。留学の動機としては、若いうちに海外で生活してみたいと思った事や、外国の人がどんな風に物を見て考えているのかを知りたいと思った事、色んな国を見てみたかった事、この留学を機にほぼ無いに等しい英語力を大幅に向上させる事など、挙げると切りがないくらいたくさんあるが、大前提にただ単純に面白そうだったと思ったからだ。

SIIT では **English for Engineering**、**Digital Circuits**、**Data Communications and Networks** の 3 教科を履修した。**English for Engineering** では英文法の変換から論文の書き方やプレゼンテーションの仕方まで幅広く学び、**Digital Circuits** では位取り記数法による計算からデジタル回路の解き方やダイオード、トランジスタなどの動作原理まで学んだ。また **Data Communications and Networks** では通信機器の概論や現在使用されている通信網の動作原理などを学んだ。もちろん授業や試験などは全て英語なので始めのうちは先生の言っていることが理解できず、戸惑った。しかし、タイの学生や他の国の留学生はとても優しく、書ききれなかった授業のノートを見せてくれたり、授業中分からなかったところを質問すると快く丁寧に教えてくれたりと凄く助けられた。授業以外でも、タイの学生はいつもフレンドリーに接してくれた。何か困ったことがあってもすぐに救いの手を差し伸べてくれた。私が日本で留学生相手にとっていた態度を考えると自分が凄く情けなく思えた。ただでさえ異国に独りぼっちでいるのに日本人みたいな閉鎖的な態度をとられたら本当に辛いと思う。私もタイの学生のように、日本に帰ったら留学生の皆さんに優しく接したいと思う。2 ヶ月くらい経つとだんだん英語にも慣れてきて先生の言っている事が少し分かるようになっていき、授業中に簡単な質問ができるようになっていった。それに伴って先生に質問される回数も増えていき、特に **English for Engineering** では明らかに他の学生より質問される回数が多かった。始めは他の学生よりも英語力がない自分は先生の質問が凄く嫌で毎回冷や汗ものだったが、今思うともう凄く良い経験ができたと感謝している。最終的には授業内容を完璧に理解とまではいかなかったが、試験するにあたって差し支えないくらいは理解できるようになった。

私の留学と同時期にはドイツやフランス、アメリカ、スコットランドなど様々な国から留学生がきていた。タイでの生活が始まってすぐに、スコットランド人の滞在する部屋がまだ決まっていないということで1週間くらいルームシェアをすることになり、始めはどうなる事かと思っただが、文法めちゃくちゃな英語と身振り手振りで何とか会話もできてとても楽しかった。この経験から、そんなに完璧な英語でなくても案外通じるものだということが分かり嬉しかった。

私生活では特にタイ人やドイツ人、フランス人の学生と仲が良く、学校はもちろん、多くの時間を共に過ごした。ボーリングに行ったり、ムエタイを見に行ったり、旅行に行ったり、パーティに行ったりと、とても有意義な時間を過ごすことができた。他の国の人と話をしていると、毎日新しい発見があった。日本という島国で1つの文化しかないところで育った自分にとってそれはとても新鮮で面白かった。やっぱり他国の人との異文化コミュニケーションは大切だと再確認できた。

個人では試験やレポートなどが無い時は必ず旅行をした。タイでは北はチェンマイ、南はハート・ヤイまで興味を持った場所は全て旅をした。タイ内の総移動距離は少なく見積もっても約12000kmにもなった。これに加え、カンボジアやラオス、マレーシアも旅をした。色んな土地で色んな風景を見て、色んな国の文化にふれ、色んな人々とふれあい、友達になった。そこで強く感じたのは、例え国が違っても、言葉が通じなくても、笑顔は万国共通ということだ。旅の途中、色んな出来事があったが笑顔で接することでトラブルを回避することができたし、色んな人たちと仲良くなることができた。

最後に、私はこの留学を通じて本当に貴重な経験をする事ができた。英語力の向上はもちろん、様々な国の文化や生活を知ることができた。そしてなにより色んな国にかけがえのない友達もたくさんできた。これからは、この得たことや感じたことを最大限に活かし、より一層人間力を高めていきたいと思う。また留学においてお世話になった人たちや両国の大学、親に感謝したい。

これから留学を考えている人たちへ

「絶対行け、行けば分かるさ。」